

自己点検・自己評価及び学校関係者評価の結果

厚労省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己評価指針作成検討会報告書」に基づき、本校において2019年3月に自己点検・自己評価のアンケート調査を実施しました。評価は5段階のリッカート尺度を用い、「当てはまる」を5、「やや当てはまる」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり当てはまらない」2、「当てはまらない」を1として得点化しました。対象は教職員14名、回収は13名分で回答率は93%でした。この結果をもとに、2回の自己点検・自己評価委員会（2019年3月29日、5月22日）を開催し、結果の分析及び到達と課題を整理しました。そして、5月31日（金）に学校関係者評価委員会を開催し、ご意見を伺いました。

カテゴリー	平均点	自己点検・自己評価委員会	学校関係者評価委員会の意見
教育理念・教育目的	4.14	教育理念・目的の関連は民医連の綱領、法人の医療・看護の理念がもとになり、「無差別平等の医療」「患者の立場に立つ看護」が教育実践の軸になっている。ただ、「設立の主旨」は明記されているが、教育理念として成文化されていないのが課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・設立の趣旨と教育理念が合わされた文章になっているので、教育理念を成文化した方が良い。 ・民医連の看護専門学校であるが、民医連の精神に合う、合わないに関わらずどの学生にも平等に対応していることは大切。 ・憲法を護り、生命を尊重し、命の平等を大切にす民医連の考え方をもち卒業しそれぞれの就職先で活躍して欲しい。
教育目標	3.93	教育目標は理念と一致しているが、「目標内容と到達レベルの対応」や「具体的で実践的なものになっているか」という点で課題がある。卒業時に獲得している能力を評価し、目標との整合性を確認する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に地域をみる力が育っていることがより重要になっている。
教育課程経営	4.03	2022年度に予定されているカリキュラム改定に向けてカリキュラム評価を実施することが当面の大きな課題である。人口構造や疾病構造の変化により医療や介護をめぐる動きは大きく変化している。本校のカリキュラムは憲法25条に基づき、人権を尊重した上で、「働くことと健康」「生活と健康」の理解を重視している。これを時代の大きな流れの中で捉え直し、豊かなフィールドをさらに有効に活用してカリキュラムの優位性を追及することが求められる。また、サブカテゴリー「学生の看護実践体験の保障」の点数が高かったのは、学校側と実習受け入れ側で情報共有が図	<ul style="list-style-type: none"> ・実習環境が良く、看護師がよきロールモデルになっている。 ・外来や診療所、訪問看護ステーションなど地域を知る実習は、病棟実習に比べて指導体制が十分とは言えないが、学生の学びは大きい。

		れ、学校側の教育のねらいをよく理解した上で十分な経験をさせていただいている成果だと思われる。一方、サブカテゴリー「教員の教育・研究活動の充実」が低かったことは、さらに業務改善を図って授業研究に充てる時間を作り出す必要性を示している。教務事務や用務事務を配置して教員が教育活動に集中できる体制を整備してきたが、授業研究に充てる時間は十分とは言えない。業務の重なりを減らすなどさらに改善を図ることが必要。	
教授・学習・評価過程	3.83	「人が大切にされる」風土が醸成され教員と学生、学生同士、教員同士が「育ちあう」関係を大切にしている。9年連続国家試験合格100%もこのような教育環境の影響が大きい。一方で、学習への動機付けに関してはオリエンテーションなどできめ細かに対応しているが、学生の主体性につながっているか見直す必要がある。さらに魅力ある授業・実習づくりで主体性に働きかける必要があることから毎年続けているFD研修や授業案検討は継続的に取り組む。また、発達特性をもつ学生が増えていることから、個別状況をつかみ、必要な支援を提供できるよう努力していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの時代に学生にどんなことを学んで欲しいを明らかにしていく必要がある。 ・どんな領域でも教授活動では事例から学ぶことが何より大切である。 ・教員はとても教育熱心である。学生同士の関係もとても深く、大学とは異なる特徴がある。
経営・管理過程	3.84	学校の将来設計に関する項目の点数が低かった。中長期計画を全員の力で立てる必要がある。老朽化と狭小という課題を抱えた施設であるが、その中でも図書室、情報処理室を改修し学習環境を改善している。今後は実習室改修と個人指導スペースの確保が当面の課題。学校評価体制の整備に関しては、自己点検・自己評価活動が2014年以降滞り課題であったが、2018年度から再開し、学校関係者評価委員会開催まで実施できた。今後継続的に取り組むことが課題。また、経済的問題を抱える学生が増え、生活の大変さやアルバイトなどで学業に専念できない学生がいる。学費負担軽減の文科省の新制度に手挙げをして指定をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備面では、課題がある。学習環境面では、個人指導を行う学習スペースが不十分なこと、実習に関する備品に一部古い物があること、安全面では印刷室の棚の上の荷物や教室内の視聴覚機器のコードが整理されていないことなどは改善が必要。 ・経済的な問題から学業に専念できず、朝から居眠りしている学生もいると聞く。学生が学費の心配なく学べる支援策が必要。 ・広報活動では、公式フェイスブックやインスタグラムで学生の様子がよく伝わっている。

入学	4. 15	<p>募集活動を強化しているが、2017 年度、2018 年度募集で定員割れを来した。受験生減少の分析結果から指定校推薦を復活（2018 年度）し、入学生の状況が安定してきた。公式フェイスブックやインスタグラムを開設しフォロワーを増やしている。今後、更に受験生が減少することが見込まれるため、魅力ある学校づくりと広報が重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定員割れを来さないよう引き続き募集活動に努力して欲しい。 ・高校の進路室がまず大学受験を勧める実態があるのではないか。子どもは周囲の空気感で大学に行ってしまうとも聞く。高校の進路室に看護専門学校の良さを理解してもらう活動や受験生に学校を知ってもらう活動は引き続き必要。 ・共立高看は法人の看護学生室と連携が図れる強みがあるので、これを十分にいかしてほしい。
卒業・就業・進学	3. 27	<p>この5年間の卒業生 200 名のうち県内就職者は約 80% であり、うち設置母体関連病院への就職割合は 64% である。県内に幅広く就職していることは公益社団法人として重要なことである。一方で設置母体からはもっと設置母体関連病院への就職率を上げるよう要望されている。各学年でキャリアガイダンスを実施して自分の価値や人生設計と合わせて進路先を検討できるように働きかけている。卒業時の到達状況や就職後の進路などは調査実績がなく、不明である。ここ数年実習で不合格になり卒業延期になる学生が数名ずつ存在する。社会が医療・看護に安全・安心を求めていることも評価に影響を与えている。現行カリキュラムを評価するためにも卒業時に獲得していることが望ましい能力を明確にした上で卒業時の到達を調査し、教育活動に活かす必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の動向を掴むのは学校では難しいと思われる。卒業後に集まる月を決めている看護学校もあると聞く。その際に動向もつかめるので参考になる活動ではないか。 ・昨年度活動を再開させた同窓会の存在も大きい。同窓会の活動が活性化すると動向も掴みやすくなるし、学校の発展も支えてもらえる。 ・キャリアガイダンスには民医連以外の病院の就職状況も情報が欲しい。他病院に就職した卒業生の情報など学生も家族も知りたい。 ・民医連を理解して卒業させてほしい。
地域社会／国際交流	3. 49	<p>患者を社会的側面からとらえる力をつけるために地域で生活する方との触れ合いを大切にしていることは本校のカリキュラムの特徴点である。</p> <p>成人看護学での労働体験（農業や製造業）、老年看護学のグランドゴルフや統合分野での模擬患者の協力など。また、近隣自治会の行事への参加で交流も行っている。しかし、学校周辺の地域の実態をつかめてい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と良く交流し、地域のつながりを活かして教育活動を実践しているので、自己評価が低いと感じる。 ・他の学校よりも地域とつながっている。労働体験、グランドゴルフ、地域自治体への協力など。国際交流を除いてもっと評価点が高くて良い。

		ないことが課題である。教員はもっと地域を知り、地域の実態から学生が学び、学生が関わることで地域に貢献できることを期待していると推察される。2019年度は周辺地域の調査活動や高齢化している団地の健康支援活動など多面的に活動を拡大する予定。国際交流の面では、外国語の学習を通して言語や文化を知る機会はあるが、留学生受け入れは困難であり、評価点が低い。	
研究	3.36	毎年、学会や研究会で学術的あるいは実践的内容を発表している。評価点が低い背景は、研究への意欲や自己研鑽の自覚はあるが、スキルが不足していること、時間が確保できず進まないなどの課題がある。まず、研究のスキルを学ぶ機会を設けること、研究に積極的に挑戦することが必要。	

以上、評価の結果から当面の課題として以下に取り組みます。

1. 現行カリキュラムの評価を全教員の力を結集して行います。
2. 卒業時の到達目標を明確にして、実態の調査を行います。
3. 魅力ある授業・実習づくりに引き続き取り組みます。
4. 教員のラダーの検討とラダーに基づく教員養成に取り組みます。
5. 学校の中長期（5年～10年）の計画を策定します。

	カテゴリー	項目数	平均点
I	教育理念・教育目的	11	4.12
II	教育目標	7	3.89
III	教育課程経営	31	4.00
IV	教授・学習・評価過程	17	3.83
V	経営・管理過程	36	3.81
VI	入学	2	4.08
VII	卒業・就業・進学	8	3.26
VIII	地域社会／国際交流	10	3.50
IX	研究	3	3.31
全体の平均点			3.76

